

ザンビアに暮らしてみても

青年海外協力隊 平成25年度2次隊 山本佳苗
任地：マザブカ（南部州） 職種：PCインストラクター

✂ 中等学校でコンピュータの指導をしています！



こんにちは。Mwa buka buti? Muli bwanji? Muli shani?

青年海外協力隊として、ザンビアに派遣されている山本佳苗です。

今月、ついに2年間の派遣期間を満了します！ボランティア活動については報告書を書いたり、日本の友人に話したりする機会は多いのですが、今回は私のザンビアでの“暮らし”をご紹介します。

最初に...生まれ育った日本を離れ、海外の土地で2年間“暮らす”ということは、想像していた以上に、辛く、寂しく、そして楽しく、面白いものでした。日本で暮らしていた時よりも喜怒哀楽の感情が忙しく働き、一日の最後はグツタリ。帰国を前にして、「早く帰りたい!」という気持ちもありますが、それでも日本に帰ったら「ザンビアが恋しくなるだろうなあ」という思いも...それはやはり、この土地で一緒に暮らしてきた大好きな友人たちと離れしめる寂しさなのでしょう。

私はもともと日本でも友人の数は多くなく、気の合う人と長く深く付き合うタイプです。それに加えて、街の陽気なザンビア人から「Hello, my friend!」と言われても、はにかむくらいしかできない愛想の無い人間なのですが、それでもこの2年間で、“友人”と呼べる人が何人かできました。その中でも、一番多くの時間を過ごしたのが、同僚の先生であり、私のザンビアのお母さんである、Mrs. Bertha Simona（以下ママ）です。

ということで、ここからは、私とママの楽しい日常生活をご紹介します。



実技の指導をするママ（Technical Drawing（技術）の先生なのです）

① スイーツタイム



ザンビアの風船ガム 1個約1円！日本のものより甘めです

関西出身で年々おばちゃん化している私にとって、カバンに“飴ちゃん”は当たり前ののですが、ザンビアでも女性（に限らず）は甘いものが大好きです。学校でママとお話したくなった時は、タックショップ（売店）でお菓子を買って、ママが働く建物に会いに行きます。会ったらまずは「I missed you!」と言い合ってから、二人でお菓子を食べながら、どうでもいい会話をします。お菓子はたまにオレンジや洋梨になったりもするのですが、とにかく、甘いものがあると、どうでもいい会話にも花が咲くものなのです。

因みに、ここザンビアではティータイム（10時頃）に紅茶を飲む習慣があるのですが、甘党が多いザンビアでは、砂糖4～5杯！は当たり前のようです。でも健康志向のママはシュガーフリーOK！日本のおせんべいもお気に入りです。



生徒も大好きなタックショップ

仕事の時とは違う顔😊

② ビューティータイム



日本のファッション雑誌に夢中の近所のお嬢様方

甘いものにつき、“おしゃれ”も、ザンビアの女性には欠かせないもの。中でも、髪の毛、洋服は特に関心が高い項目です。髪の毛は、編み込みをしたり、ウィッグやエクステンションを付けたりするのが主流です。ヘアスタイルも日本よりバラエティー豊富で、街にはたくさんサロンがあります。

洋服に関しては、ドレススタイル(ワンピース)が人気があります。既成のものを買うこともできますが、チテンゲ(ローカルの布)を買って、テーラーさんで仕立ててもらうことも。ママは、私たちの住むマザブカで腕の良いテーラーさんをたくさん知っていて、私も一緒にいくつかドレスを作りました。デザインは、ザンビアの伝統的なもの、

近代的なもの、色々試してみました。できあがって、気に入らない時は、ママに相談して、お直しをします。ママは優しい人ですが、似合わないものは「似合わないわよ！」と私を正しくガイドしてくれる、日本の母と同じくらい頼もしい人でもあります。こうして作ったドレスは、既成服より愛着のあるものばかりです。



芸術的な編み込み!!

実技の無い日はドレスでエレガントなママ



身なりを整えることも教育の一環。私も始業式と終業式はドレスを着ました



ザンビアに遊びにきてくれた友だち テーラーでチテンゲを使ったキッチン用品(お土産用)を作成

③ エクササイズタイム

甘党が多いことから想像しやすいと思いますが、日本よりもふくよかな女性(男性も)が多いザンビア。それでも最近、スポーツジムがポピュラーになったりと、ダイエットやエクササイズへの関心が高まっているようです。ママもその内の一人で、健康と美容のためにエクササイズをしています。自宅では動画を見ながらダンスや筋トレ、外では学校のグラウンドでウォーキングとジョギング。私も、たまにグラウンドに参加します。星空の下を歩きながら、仕事の話、家族の話、正しいデート相手の選び方...等々色々な話をします。ボランティア活動や生活で落ち込むことがあっても、歩いた後はすっきり。グラウンドの1週は約400mで、大体10週くらい歩きます。日本のジムのトレッドミルでは「早く終われー」と思っていた4kmですが、ここでは、「一緒に歩くと、あっという間ね」とママも言ってくれる、楽しい時間になります。



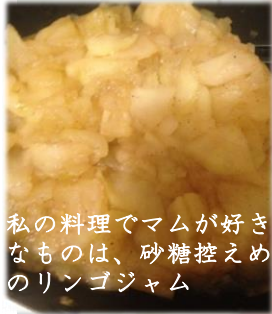
思い出のつまったグラウンド 星空をお見せできないのが残念です

④ チャージングタイム

人生の楽しみは、やっぱり“食べる”こと！日本食が恋しい2年間でしたが、ザンビアの美味しいものたちに明日の活力をもらったことも数えきれません。といっても、私はあまり料理が得意ではないので、ママのお家でよく夕食を食べさせてもらっていました。

大好きなピサシ！

野菜と、ピーナッツのパウダーを和えたおかず



私の料理でママが好きなものは、砂糖控えめのリンゴジャム

持っている物を“シェアする”ことはアフリカン・カルチャーだとよく言われますが、特に食べ物は、家族だけでなく、親戚、ご近所、友だち、訪問客など、広い範囲に振る舞われるようです。ママの家で食事を頂いていると、ママと一緒に住んでいる家族以外にも、色んな人たちと一緒にテーブルを囲む機会が何度もありました。詳しく素性は知らなくても、同じものを同じ空間で食べるだけで、距離が縮まる気がするのなぜでしょうか。不思議ですが、素敵なことだと思います。

また、ザンビアには驚くほどたくさんの野菜があります。日本でも馴染みのトマトや玉ねぎ、

キャベツ、ナス、オクラ、じゃがいも、白菜などをはじめ、

市場に行くと様々な野菜が手に入ります。日本には無い野菜もたくさん

見つけました。ザンビアの人は家庭菜園も得意で、採れたての野菜を自宅

で食べたり、売ったりしている人もたくさんいます。日本では高めのマンゴーも、お庭に生

るので食べ放題。日本にいた頃よりも、

大自然からたくさん栄養をもらった

気がします。



ママの自宅ガーデン
マンゴーは歯で皮をむいてワイルドに食べるのがザンビア流



主食のシマ
お肉や魚、野菜と食べる

⑤ リラックスタイム

仕事もエクササイズも夕ご飯も、全てが終わった後は、テレビの前でゴロゴロ。明日に備えてのんびり過ごします。私の周りの家庭では、無料で視聴できるローカル放送局に加えて、有料の“DSTV”というグローバルチャンネルに加入するのが一般的です。日本でもテレビドラマは人気ですが、ここザンビアでも特に女性はドラマ好き。一昔前まではメキシコの“Telemundo”が主流でしたが、最近はインドの“Zee World”が人気を博しています。日本の様に週1回の放送ではなく、平日毎日放送、という点も、エンターテイメントが少ない地方都市ではありがたいものです。夕方から1時間ごとに4本程度の人気プログラムが連続放送されるのですが、内容は、家族もの、恋愛もの、事件ものなど様々。ママが好きなのは“おしん”のような逞しい女性を描いたドラマで、毎回試練を乗り越える主人公に一喜一憂し、時に感想を言い合います。ママと一緒にいて楽しいのは、一緒に議論ができること。そして議論の背景にある、辛い体験、楽しいストーリーをシェアすることができること。バックグラウンドや人生経験の違いから、学び合っています。



.....いかがでしたでしょうか？

ママとの楽しい思い出は尽きませんが、ここでご紹介した“なんでもない日常”が、何故だか自分にとってとても大切なものと感じます。環境は違いますが、やっていることは、面白いことに日本とそんなに変わらない...！世界中どこにいても、日々を彩ってくれる家族や友人がいれば、健やかに楽しく暮らしていけるものですね。

2年間共に頑張った同期隊員



実はママと仲良くなったのは、赴任してから10か月ほど経ってからで、それまでは首都のルサカが好きではなかったと思います。ルサカには近代的なショッピングモールやおしゃれなレストランがあり、任地での生活や活動の大変さを理解してくれるザンビア人の友人や隊員仲間もいて、ストレス発散にはもってこいの場所だったのです。

ママと仲良くなってからは、任地での生活も活動もリズムが良くなり、迷いが少なくなりました。

色々あきらめかけていた私に、「正しいことをしているなら、頑固になりなさい！(Be stubborn!)もっと大きな声で言いなさい！(Speak out!)」と、まるで体育教師隊員のように叱ってくれたのも、ママでありました。

ザンビアが好き！と言えるのは、ここでできた素敵な友人たちのお陰。今そう思えることが、2年間ここに暮らした成果のような気がします。

これからも、ザンビアと日本の絆が益々深く温かいものになりますように！



誘惑の多いルサカ！
お寿司も食べれる！！



(終わり)